

コラム

# みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.6

## 【愛のある記録の書き方について】

2019年9月26日18時半から台東区内のホテルで開催されたNPO法人HAP @浅草在宅DI塾主宰「かかりつけ薬剤師のスキルアップ研修会」の議題は、「対人支援ができる技をみにつける 生活支援記録法から学ぶ」。

激変する環境におかれている中で、薬剤師は対人支援ができる力をいかにしてみにつけるかが問われています。生活支援の視点と記録法についての普及に尽力しているケアマネージャーの鐵宏之氏をお招きし、介護の現場に求められる記録法について熱く語っていただきました。

研修会では、最初に主宰者であるHAP理事長のみやちゃんが、激変する薬剤師の現状を細かく説明されました。実はテープリライターでもある私は、この箇所をテープ起こししてまとめましたが3千字を超える長い分量となってしまいましたので、ここでは割愛させていただきます。こういう記録は、レポートする立場にいる者にとっては必要不可欠で、まずは一字一句ひろい、その後にダブリ部分を削ったり要約したりして仕上げるのですが、医療・介護の現場にいる方たちはどうでしょうか？

現場では、医師・看護師・薬剤師・作業療法士などが患者をみた記録を残しています。患者さんや（介護サービスの）利用者が話したことを一から十まで記録しては時間が足りませんので、必要と判断した事柄を要約し記録しています。

医療・介護の現場だけでなく、記録は、個人が書く日記、子孫に思いを残す自分史、企業の会議録など幅広く存在しますが、介護の現場では、記録は何のために必要なのでしょうか？

言うまでもなく、介護を利用する利用者、機関のため、介護を援助する側のためであります。代表的な記録法には、

- 逐語記録
- 叙述記録
- 構造化記録
- 問題志向型記録

などがあり、それぞれ一長一短があります。

薬剤師の現場では、記録として「薬歴」があり、記録の形としては「問題指向型記録（SOAP記録）」が導入されています。これは、

S (subjective data) 本人からの情報  
O (objective data) 「S」以外の情報  
A (assessment) 気づき、判断等  
P (plan) 計画



で、問題毎にSOAPの4項目に分けて記載するものです。薬剤師は、クスリを扱い（時に）運ぶ「物流」の役割を担っているため、どうしても記録の内容が問題（クスリ）ばかりにフォーカスされがちです。しかし、介護の現場では、クスリだけが問題ではありません。

F (focus) 出来事に着目した「生活支援記録法」（F-SOAIIP）は、介護を必要とする利用者がもつめる生活に目を向けた記録法で、介護にあたる医師、看護師、薬剤師、ケアマネ、ヘルパーなどそれぞれの職種のスタッフが残り、それを活かしていけば、よりよい介護が期待できます。具体的には、

【F焦点】：何に着目したか？  
【S本人】：利用者・家族の言動  
【O事実】：その時の状況・様子  
【A判断】：援助者の気づき  
【I実践】：援助者の働きかけ  
【P計画】：当面の計画

項目にわけてシンプルに、かつ要領よく記録を残すことが必要なのは言うまでもありません。実際の現場では、医師や看護師や薬剤師など様々な職種の人たちが対象者と対峙しますが、時間は限れており、また気づく点もそれぞれ違いますし、実践したい・したほうがいいと思うことも異なります。だからこそ、きちんと記録されているものは、支援の振り返りをするのができアセスメント力の向上につながるのです。

この原稿を書いているのは、「かつて経験したことのない」破壊力をもった台風19号が関東地方を直撃し甚大な被害をもたらした一週間後です。幸いにも私は被災しませんが、日頃、介護サービスを必要とする方たち（災害弱者）は避難所に一人で行くことさえできないでしょう。被災されてそのトラウマで恐怖を感じておられるとどうでしょうか？

患者や利用者の声に耳を傾け、その人らしい暮らしや願いを叶えるためには？

現在、話題を独占しているAIは優秀で必要不可欠な情報を即座にもたらしてくれますが、生身の人間に対してはそうはいきません。

つまるところ、人を好きになることが大事。それによって愛（AI）のある記録を残すことが可能となるのではないのでしょうか。薬剤師の厳しい現状に危機感を覚えたみやちゃんの熱い思いから実現したこの研修会。介護現場における記録の考え方について、楽しくわかりやすく教えてくださった鐵先生の熱意とハートの暖かさを感じた研修会でした。